

日本人とフランス語学習者コーパスに基づく学習者の談話標識の使用

サブタイトル



目次

1. はじめに
2. コーパス
3. 調査
4. 結論・展望
5. 参考文献

1. はじめに (1.1)

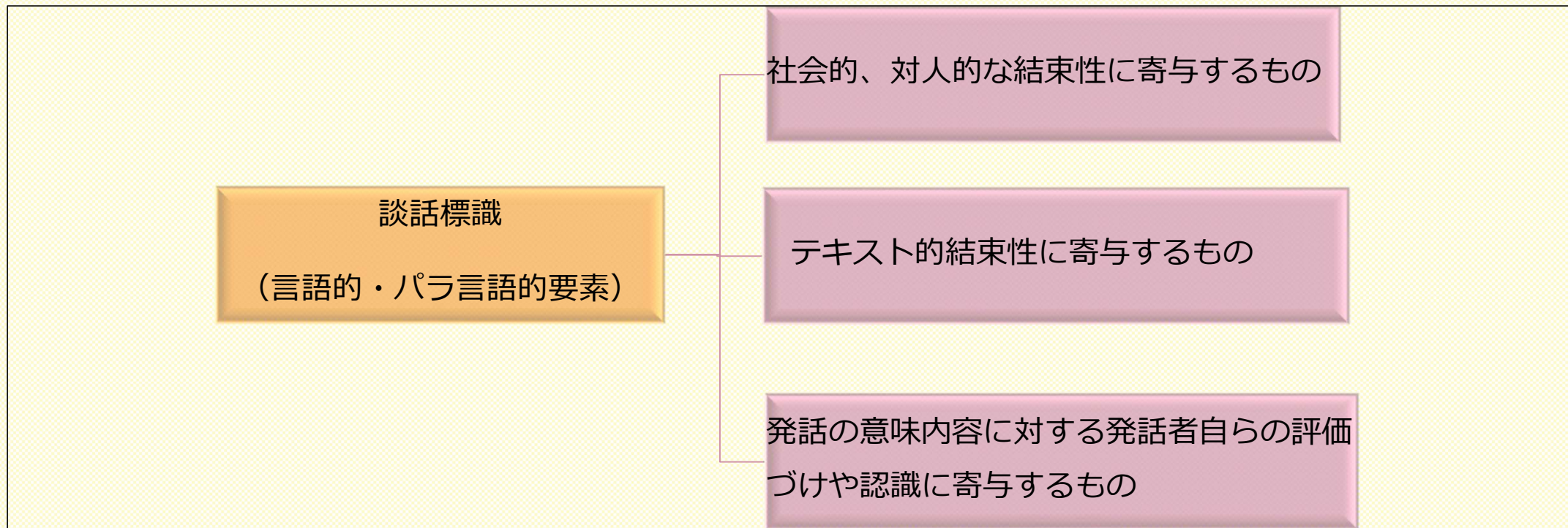
1. 1. 研究テーマ

日本人フランス語学習者の**談話標識**の使用と習得を
学習者コーパスのデータに基づき研究する。
今回は質的分析。。。

1. はじめに (1.2) 談話標識の定義

Fedriani & Sansò (2017: 2-5)

伝統的な品詞のカテゴリーには当てはまらない機能的なカテゴリー



1. はじめに (2) 背景・動機

- 談話構築のストラテジーとしての多様な言語的要素、パラ言語的要素の使用の実態が明らかになりつつある。
- フランス語学習者の談話標識の使用についても研究が進められているが、日本人フランス語学習者の研究は希少である。(Sugiyama 2017a. Sugiyama 2017b.)
- 前科研課題の枠組みで、コーパスに基づく学習者の談話標識の研究を開始し、秋廣(2020)を発表した。今科研課題でも、その研究を継続的に研究を進めており、何等かの成果を出したいと考えている。本発表では、その進捗状況、今後の展望を報告する。

1. はじめに（3）研究の目的

日本人フランス語学習者の談話標識 euh の使用状況をコーパスに基づいて調査し、

- 母語話者の使用と比較し、どのような違いがあるか
- レベルの異なる学習者間でどのような使用の違いがあるか
- 学習の過程における（非）流暢性との関係はどうか、

について考察する。

2. コーパス

データ	語数	話者	CEFR	学習歴	フランス留学歴
日本人フランス語学習者					
jpfu2yn1_1g (Detey科研B)	1668	学習者A	A2～B1	3年	1年
jpto1ak1_3g (Detey科研B)	2593	学習者B	B1～B2	5年	1年
jpto1csg (Detey科研B)	1907	学習者C	B2～C1	6年	1年
フランス語母語話者					
fr03-1_2005_07_04 (TUFスフランス語話し言葉コーパス)	2482	母語話者	ネイティブ	学生	

- ここでの語数はインタビューされた人の発話の語数のみを数えている。
- 学習者コーパスについても、母語話者コーパスについても、インタビュー形式のものを選んだ。



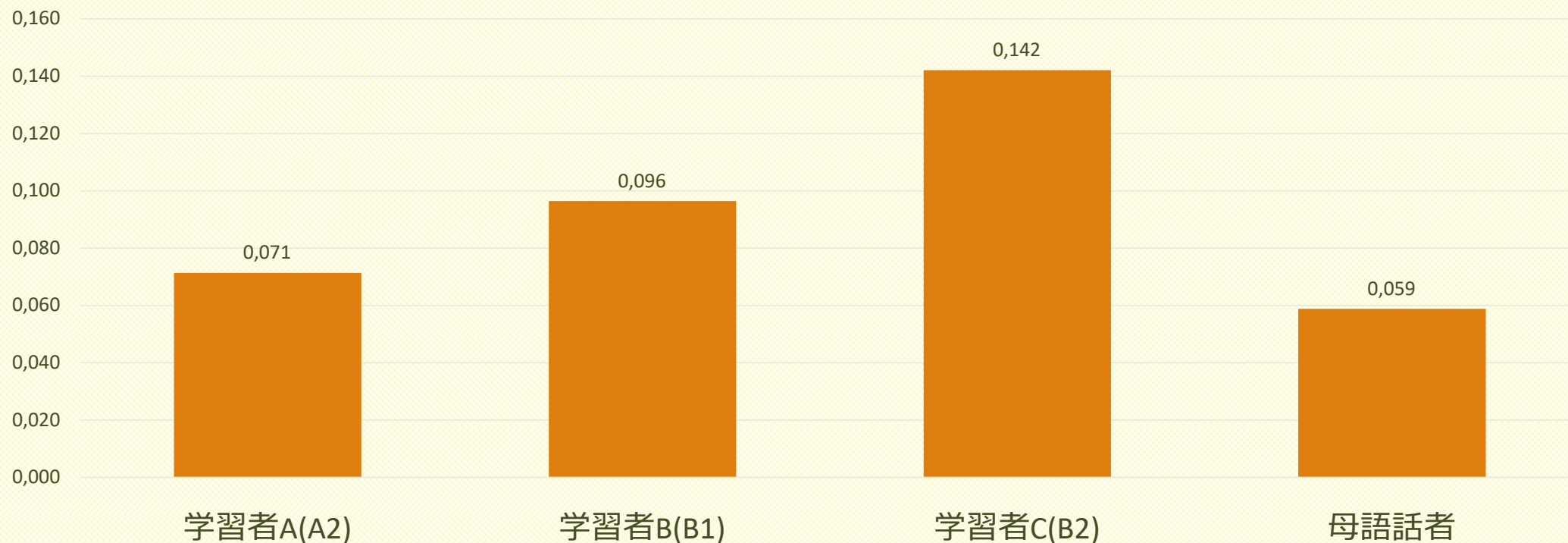
3.調査方法

Crible（2018）のフランス語談話標識のリストに従って、手動で談話標識と考えられる要素を全て抜き出した。そしてそれぞれの要素の位置ごとにさらに分類して、頻度数を出した。

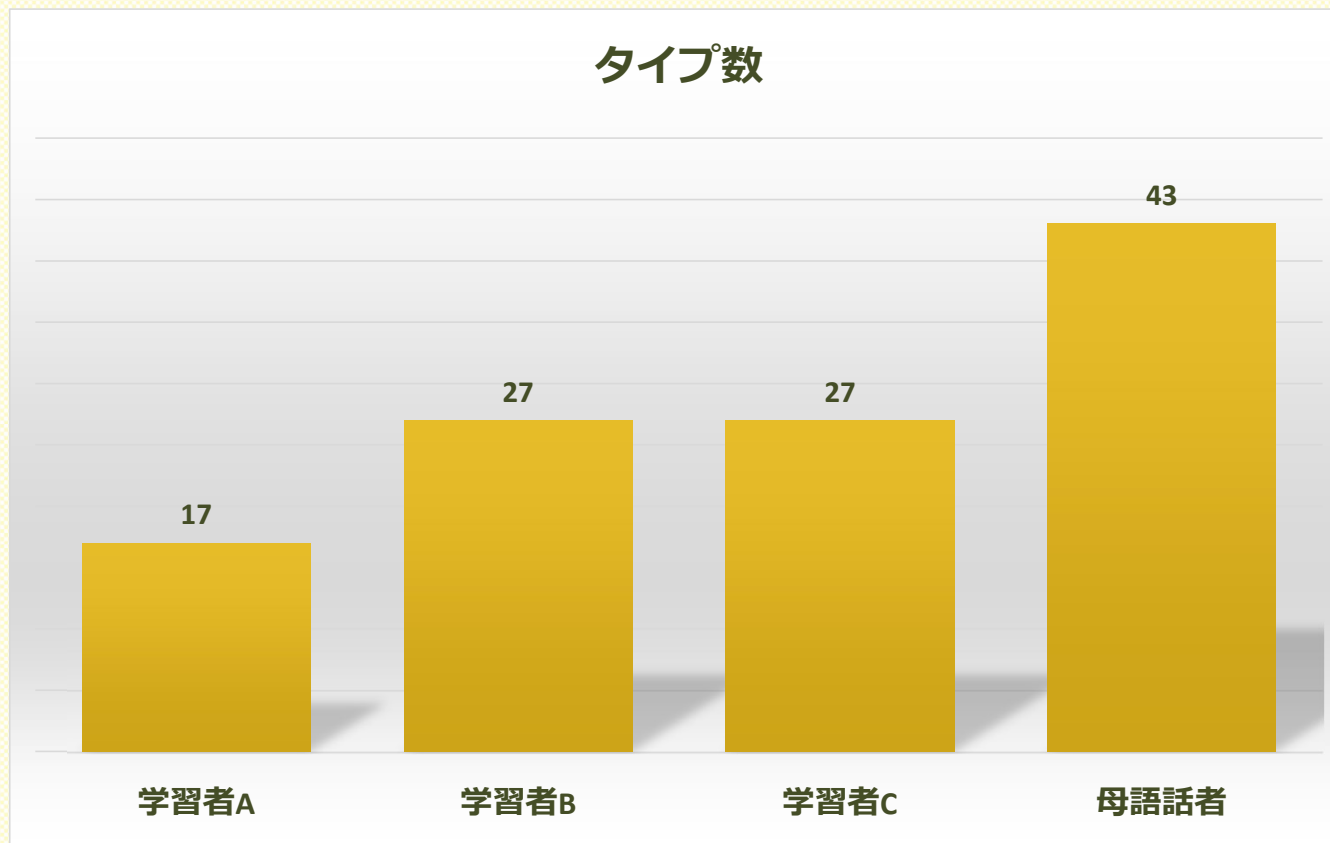
		YN(A2-B1)	AK(B1-B2)	CS(B2-C1)	natif
OK	I	0	1	0	0
ah	I	7	10	11	2
ah	EA	0	0	1	0
alors	I	0	0	0	2
apres	I	2	1	7	7
bah	M	3	0	0	0
bah	I	3	0	0	0
ben	I	0	0	0	3
ben	M	0	0	0	2
bien sur	I	0	0	0	1
bien sur	EA	0	0	0	1
bien sur	M	0	0	0	1
bof	EA	0	0	0	1
bon	I	0	0	0	8
bon	F	0	0	0	3
c'est a dire	M	0	0	0	4
c'est sur que	I	0	1	0	0
comme ca	F	0	4	2	0
comment dire	I	2	6	2	0
d'accord	I	0	6	0	0

調査結果（１） 談話標識の出現頻度数の比較（秋廣2020）

談話標識の出現頻度数（総語数に対しての割合）



調査（２）談話標識のタイプ数（秋廣2020）



話者	談話標識のタイプ数
学習者A	17
学習者B	27
学習者C	27
母語話者	43

調査（１）と調査（２）から分かること

- 今後、話者数を増やし、ある程度個々人の違いが中和される程度まで数を集めて調査する必要があるが、以下の点が分かった。
- 習熟度レベルが上がるにつれて、談話標識の頻度が増えるとともにタイプのバラエティも増えている。
- 母語話者と学習者の談話標識の頻度数を比べると、学習者の方が大きい。
- 母語話者と学習者のタイプのバラエティを比べると、母語話者の方が大きい。

（秋廣2020）

調査（3） euh の使用の比較（秋廣2020）

- 母語話者にとっても、学習者にとっても、もっとも多く用いられた談話標識は euh（フィラー）であった。以下にそれぞれの話者の euh の出現頻度を示す。

談話標識 euh の使用頻度
（全体の語数に対する割合）



(3.1) euhの現れる位置と機能の対応関係

- 談話機能と位置は対応関係にあることが多い。(Beeching & Detget 2014 : 11)

Functional Asymetry at L.P. and R.P.

LP	RP
Dialogual	Dialogic
Turn-taking/attention-getting	Turn-yielding/end-making
Links to previous discourse	Anticipation of forthcoming discourse
Response-making	Response-inviting
Focalising, topicalising, framing	Modalising
Subjective	Intersubjective

しかし上記の機能は、euh には当てはまらないので、具体例から独自に機能を抽出した。

(3.2) euh の様々な機能と位置の相関関係

euh についても、位置と機能の間には、相関関係が認められる。以下は母語話者の例。

■【左方周辺】：フィラー、言葉を探しながら話し始める。回答を切り出す。



1. L1 : voilà donc ton rôle

L2 : **euh** vice-président donc +

euh donc dans l'université il y a quatre vice-présidents +

trois vice-présidents qui sont des professeurs et un autre qui est un vice-président étudiant (fr03-1_2005_07_04)

L1: さてと、じゃあ、君の役割は？

L2: ええっと、副代表ってところかな ええと、つまり、大学には4人の副代表がいて、
3人の副代表は教授で、もう一人は学生の副代表なんだ。

■【語境界】：語句の言い直しや言い換え、語の検索

2. Les conseils centraux conse-le c- **eu**h conseil d'administration (fr03-1_2005_07_04)

中央委員会、委員・・・ええっと、総務委員会



■【右方周辺】：躊躇の表明、断定を回避、モニタリング機能

3. Après ça reste à l'université d'en définir clairement **eah** (fr03-1_2005_07_04)

とはいっても、それを明確に定義するのは大学に任されているっていうか、う～ん。



-
- 独立用法（言いはどんでいるうちにターンを持っていかれる。あるいは躊躇などを表す）

4.

L1:d' accord d' accord et au quotidien ça se manifeste de quelle manière 

L2: **eah**

L1: des pouvoirs ou pas de pouvoirs

L2: en termes bof un pouvoir c' est un grand mot (fr03-1_2005_07_04)

L1 : なるほど、なるほど。で、通常はどんなふうにそれは現れるんだい？

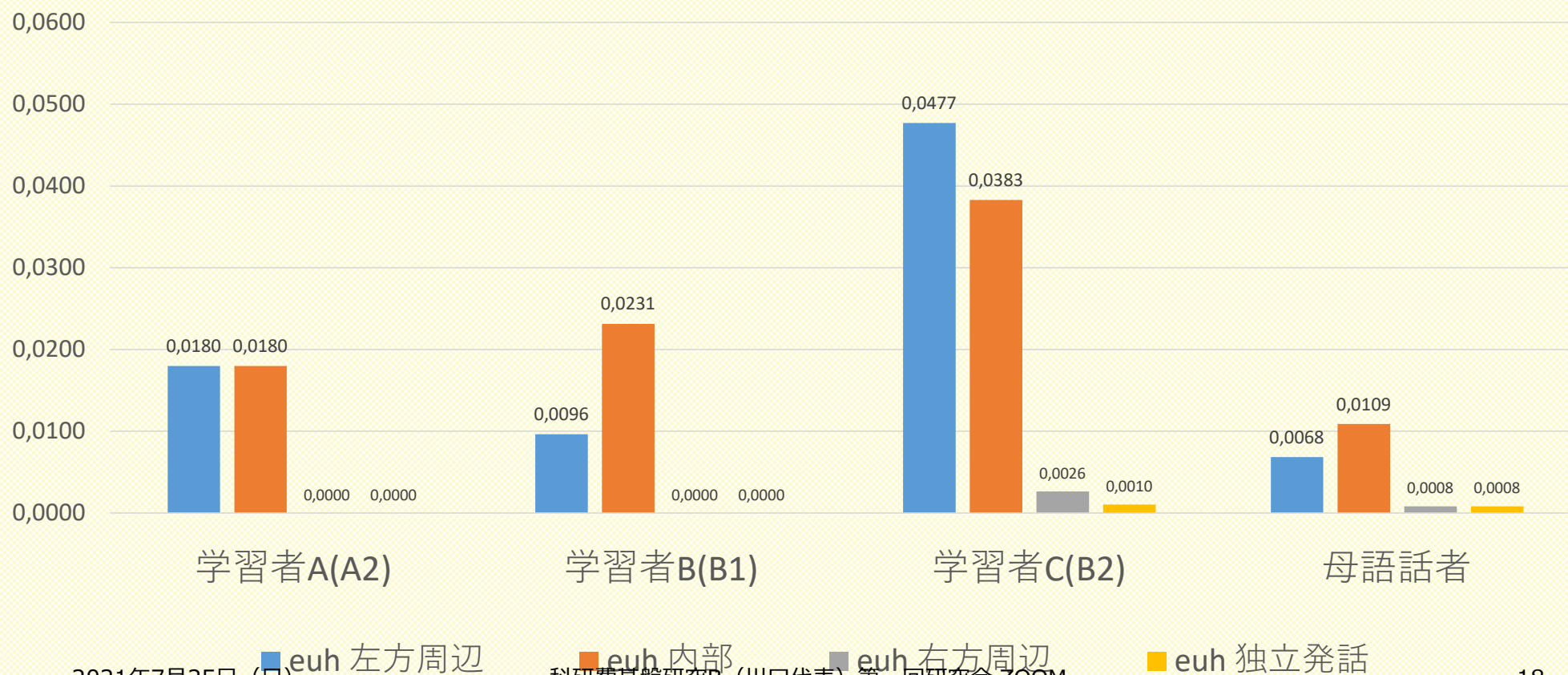
L2 : ええっと（なんとこたえていいか躊躇する）

L 1 : 権力というか、権力じゃないのか（ヒントを与える）

L2:用語としては、う〜ん、権力、っというのはちょっと大げさな言葉だね。

(3.3) 話者ごとの euh の使用の比較（位置と頻度数から）

euhの現れる位置ごとの頻度数（下位コーパス総語数内での割合）



(3.4.1) 学習者A の euh の使用について

- 学習者Aの euh は左方、語境界に現われるケースのみ。主にその機能は、言いよどみ、語探索に使用されている。mh と共に用いられることが多い。(mh は日本語の「うん」と区別できない)

5. je ne connais pas bien **euh mh** le **euh mh** comment dit l'article **euh** quand quand je utilise **mh** indéfini (jpfu2yn1)

- 他の学習者に比べて、euh の使用頻度が低い。
- mh (う～ん) で代用している。
- 言い間違いがあっても、訂正しないでそのまま先に進んでしまう。
- 複雑で長い構文を使用せず、簡単で細かい単文構造を多用する傾向がある。自分の発話をモニタリングしながら話していない。



(3.4.2) 学習者B の euh の使用

- 学習者Aよりも euh を使用しているが、機能は、言いよどみ、語探索で用いられている。

6. je parle **euh** # le [c]_japonais bien [v]_sûr **euh** # ouais l'anglais le français un peu l'espagnol (jpto01ak1)

私はええと日本語はもちろん、ええと、そう、英語とフランス語、ちょっとスペイン語を話します。

- mh で代用している傾向が強い。誤用ではないが、mh の頻度が高い。（学習者Bのmhの出現回数：母語話者のmhの出現回数 = 100 : 3）

7. **mh** sinon ça va parce que les vocabulaires ils sont comment dit il ressemble à celui de l'anglais du coup ouais ça va **mh** sauf la prononciation et la grammaire (jpto01ak1)

う〜ん、あとは大丈夫。というのも語彙はなんていうか、英語に似ているし、だから、うん、大丈夫。ううん、発音と文法を除けばね。



(3.4.3) 学習者 C の euh の用法



- 学習者A, B よりもはるかに euh の頻度が高い。
- mh の頻度は逆に減少。(学習者Bのmhの出現数 100 : 学習者Cのmhの出現数 27)
- タイプのバラエティも広がり、母語話者の使用する euh の用法がすべて出そろっている。
- 正確さに気をつけて、自分の言うべきことをモニタリングしつつ発話している。
- 文法や語彙の言い間違いが減ってきている。流暢性にかけるが、分かりやすい発話になっている。

8. euh pour moi euh comme euh j'habite euh au Japon je n'ai pas assez d'occasion de parler le français euh avec les na mh les natifs donc euh c'est une difficulté pour moi et euh une autre difficulté c'est euh la prononciation oui (jpto01scg)

ええと、私に関しては、ええと、日本に、ええと、住んでいるから、ええと、フランス語をしゃべる機会が十分なくて、ええと、母語話者の人たちと、だから、ええと、私には難しいんです。それから、ええと、もう一つ難しいのは、ええと、発音。ええ。



4. 結論

【3名の学習者の談話標識の使用の比較】

■習熟レベルが上がるにつれて、談話標識の頻度やバラエティは増えていく。

→ 談話標識をメタ言語的にうまく利用することで、学習者なりに談話を構築し、発話を継続し、自己修正や注釈を加え、コミュニケーションを行っている。

【母語話者と学習者の談話標識の使用の比較】

- 学習者の談話標識の頻度は母語話者のより多く、そのバラエティは少ない。



談話標識のバラエティを持つことで、より様々な談話機能を駆使できる。

談話標識があまり多すぎると流暢な発話にならない。

今後の課題

- 学習者のレベルごとにさらに多くの話者のデータを分析し、様々なタイプに分けてみて、流暢性に関して、評価してみる。
- 日本語からの転用の問題を考えるため、mh について調べてみる（日本語の相槌、フランス語の談話標識の mh かの区別は難しいが、習得するにつれて、その使用に変化がみられるかどうか、詳しく観察してみる。）
- どのような談話的ストラテジーにどのような談話標識が用いられるか、またそれらの談話標識の中で習得のしやすいもの、しにくいものの違いはあるかをデータの分析から明らかにする。

議論すべき点

- 話し言葉を構造化、継続するためには談話標識を使う必要がある。あまりに頻繁に使うと流暢性が損なわれる。
 - 流暢性に関しては、達成度を問題にすること自体が難しい。すらすら話すということだけが問題なのか、また、どのようなスピードで、どのように話すか（イントネーション、ジェスチャーなどを含め）という点は、学習者であれ、母語話者であれ、個人や状況に応じて多様性が見られる。
- 様々な学習者、母語話者の話し方をいろいろなタイプに分類していきたいと思うがその基準やカテゴリーの設定を考える必要がある。

- 本研究は以下の科研費基盤研究の支援を受けて行われました。

- 科研費基盤研究B（川口代表）：「言語変異に基づくフランス語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析」(20H01279)
- 科研費基盤研究B（川口代表）：「フランス語、ポルトガル語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析」(16H03442)
- 科研費基盤研究B（Detey代表）：From corpus to target data as steps for automatic assessment of L2 speech: L2 French phonological lexicon of Japanese learners (20H01291)
- 科研費基盤研究B（Detey代表）：A corpus-based multi-level analysis of spoken French produced by pre-advanced Japanese learners of French (15H03227)

引用文献

Beenching K. & Detgets U. (2014) *Discourse Functions at the Left and Right Periphery*, Crosslinguistic Investigations of Language Use and Language Change.

Crible, L. (2018). *Discourse Markers and (Dis)fluency, Forms and functions across languages and registers*. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.

Fedriani, C. & Sansò, A. (eds). (2017). *Pragmatic Markers, Discourse Markers and Modal Particles*, New perspectives. Amsterdam : John Benjamins.

Sugiyama K. (2017a) Différences dans l'utilisation des marqueurs discursifs : analyse comparative entre apprenants et Français natifs, LE FRANÇAIS EN CONTEXTES, Presses universitaires de Perpignan

Sugiyama K. (2017b) Utilisation de "c'est" chez les apprenants japonais du français - Analyse basée sur le corpus IPFC-JP, Actes du colloque international 2016 - Echanges culturels d'aujourd'hui: Langue et littérature, 215-231

秋廣尚恵 (2020) 「フランス語の談話標識と（非）流暢性」『日本語プロフィシエンシー研究』 8号, 111-134